

ふな はし 舟橋 たかゆき

たてやまの勇氣(60才)



国の補助事業を活用した公共施設の複合化で、
次世代に過度な負担を残さない、
コンパクトなまちづくり

1 「かつては、物流の拠点、賑わいの中心でもあった五百石駅周辺、町の中心部が寂しくては、この町で生まれ育った者は、この町に誇りが持てなくなってしまいます。また、中心がしっかりしていないとまちづくりはできません。もちろん、行政にできることには限りがあります」

町制70周年記念式辞(2025.2.10)から

POINT 1

五百石中心部が賑わっていたがために、道路に面している敷地が狭く、軒を連ねている。また、狭い路地のみに面している家は建て替えができません。さらに土地の境界が確定していないと売買が進みません。

そこで、2011年から、土地の境界を確定させる地籍調査事業(国1/2 県1/4 町1/4※特別交付税措置により町の実質負担は1/20、地権者の負担はゼロ)に着手しました。地権者の了解を得たところから測量し、立ち合いなどで10年余りかかっています。



(仮称) マチの駅のイメージ(南東側から)

●2025年

国土交通省の都市構造再編集集中支援事業に採択

歩道を拡幅し、民間の投資を促します。「(仮称)マチの駅」は、2024年12月に類焼したまちなかファームの後継施設。町外から訪れる人と地域住民が触れ合う場所を目指し、夏頃に着工します。財源は内閣府の交付金と火災保険金です。

POINT

2 ●2012年 立山町元気交流ステーション(みらいぶ) 竣工

旧保健センター(土地は売却済)、町社会福祉協議会・老人福祉センター(旧佐伯会館の一部を解体し、立山町土地改良区に譲渡)、図書館(旧町民会館の一部)を移設。役場庁舎内の健康福祉課も移設。国土交通省のまちづくり交付金を活用

●2025年 立山町防災児童館複合施設(アカリエ)

町民会館、旧西部児童館、水防倉庫職員待機所を統合。公共施設としては北陸初のZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) 年間のエネルギーの収支をゼロ)



元気交流ステーション(みらいぶ)

環境省と子ども家庭庁の補助、総務省の緊急防災減災事業債を活用し、町の実質負担は全事業費18億円のうち32%の5.8億円

2 「その数少ないできることのひとつが、次世代に過度な負担を残さないために、複数の公共施設をまちなかに集約し、複合化することでした。平成24年に竣工した元気交流ステーション『みらいぶ』がそれであり、今年1月に竣工した、防災児童館複合施設『アカリエ』も同様の方針で進めました」

町制70周年記念式辞(2025.2.10)から